

平成 24 年 7 月 18 日
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化芸術への助成に係る新たな仕組み（試行的導入） － 音楽分野・舞踊分野の取組 －

文化庁から交付される補助金により日本芸術文化振興会が実施するトップレベルの舞台芸術創造事業のうち、平成 23 年度においては、「音楽分野」及び「舞踊分野」の 2 分野で新たな審査・評価等の仕組みを試行的に導入。

1. プログラムディレクター（PD）及びプログラムオフィサー（PO）等の配置

- 音楽分野及び舞踊分野に PD 各 1 名を配置。（平成 23 年 8 月）
- 音楽分野及び舞踊分野に PO 各 3 名を配置。
 - ・ 音楽分野に PO 3 名、舞踊分野に PO 2 名を配置。（平成 23 年 9 月）
 - ・ 舞踊分野に PO 1 名を追加配置。（平成 23 年 12 月）
- 助成対象活動の公演調査を効率的に行うため、文化芸術活動調査員を音楽分野に 4 名、舞踊分野に 3 名配置。（平成 23 年 12 月）

2. 募集及び審査に関する企画立案

- 助成に係る基本的な方向性及び審査基準案の作成（～平成 23 年 8 月）
当該分野における助成事業の実績や課題等について調査・分析し、「助成に係る基本的な方向性」及び「審査基準案」を作成。
 - その審査基準案等を各専門委員会（8 月開催）及び運営委員会（9 月開催）に付議、説明。
- 助成対象活動に関する調査・分析（～平成 24 年 1 月）
応募のあった助成対象活動に関して、活動内容や助成経費等について調査・分析。
 - その結果を各専門委員会（平成 24 年 2 月開催）、舞台芸術等部会（3 月開催）及び運営委員会（3 月開催）に付議、説明。
- 助成対象活動の審査結果の分析等（～平成 24 年 3 月）
 - ・ 採択理由や助成により期待される効果について整理し、採択された助成対象団体との審査結果等に関する意見交換（平成 24 年 4 月～）に活用。
 - ・ 不採択となった助成対象団体に対しその理由を伝達する方策について、検討を開始。

3. 公演調査及び事後評価の実施

- 公演調査（現地調査）の実施
 - ・ 分野別に公演調査計画を策定し、文化芸術活動調査員も活用しつつ効率的に公演調査を実施。（可能な限り複数名で調査）
 - ・ 平成24年度は、今後の事後評価を見据え、審査基準を踏まえた評価基準案を策定。

※ 公演調査実施件数（平成23年度）：120公演
(PD・PO163公演、調査員28公演)

- 事後評価の実施に向けた検討
事後評価の本格導入に向け、事後評価案を検討し、平成24年度から試行的に実施。

4. 助成対象団体との意見交換等

- 助成対象団体との意見交換
あらゆる機会を通じてPD・POと助成対象団体等との意見交換を実施。
- その他の環境整備
PD・POを振興会のHPで紹介するとともに、助成対象団体等からの問い合わせに対応できるよう環境を整備。

平成 2 4 年 4 月 1 日

プログラムディレクター、プログラムオフィサー
【音楽分野、舞踊分野】

《プログラムディレクター》

○平成 2 3 年 8 月 1 日～

役職・分野	氏 名	現 職 等
プログラム ディレクター (音楽分野)	(マエ カス オ) 前 和 男	日本オーケストラ連盟 監事
プログラム ディレクター (舞踊分野)	(カガリ トシ ヒロ) 中 川 俊 宏	武蔵野音楽大学 音楽環境運営学科長

《プログラムオフィサー》

○平成 2 3 年 9 月 1 日～

役職・分野	氏 名	現 職 等
プログラム オフィサー (音楽分野)	(イシ ダ アサ コ) 石 田 麻 子	昭和音楽大学 舞台芸術センター オペラ研究所 准教授
プログラム オフィサー (音楽分野)	(キシ ダ ヲウ シロ) 岸 田 生 郎	昭和音楽大学 教授
プログラム オフィサー (音楽分野)	(ケル マツ サブ シロ) 樽 松 三 郎	東京芸術大学 音楽学部 客員教授
プログラム オフィサー (舞踊分野)	(イケ ダ メグ ミ) 池 田 恵 巳	(社)現代舞踊協会 研究部書記 なかの洋舞連盟 事務局長
プログラム オフィサー (舞踊分野)	(イケ タ ナオミ) 稲 田 奈緒美	昭和音楽大学 舞台芸術センター バレエ研究所 准教授
プログラム オフィサー (舞踊分野)	(サライ タカコ) 桜 井 多佳子	舞踊評論家

※桜井多佳子プログラムオフィサー（舞踊分野）は、平成 2 3 年 1 2 月 1 日付け

平成24年4月1日

プログラムディレクター、プログラムオフィサー
【演劇分野、伝統芸能・大衆芸能分野】

《プログラムディレクター》

○平成24年4月1日～

役職・分野	氏名	現職等
プログラムディレクター (演劇分野)	(カ イ マト) 酒井 誠	昭和音楽大学 舞台芸術センター 研究員 川崎市アートセンター ディレクター
プログラムディレクター (伝統芸能・大衆芸能分野)	(ホ ノ ヒロシ) 星野 紘	神奈川大学 歴史民俗資料学研究科 講師 独立行政法人国立文化財機構 東京国立文化財研究所 名誉研究員

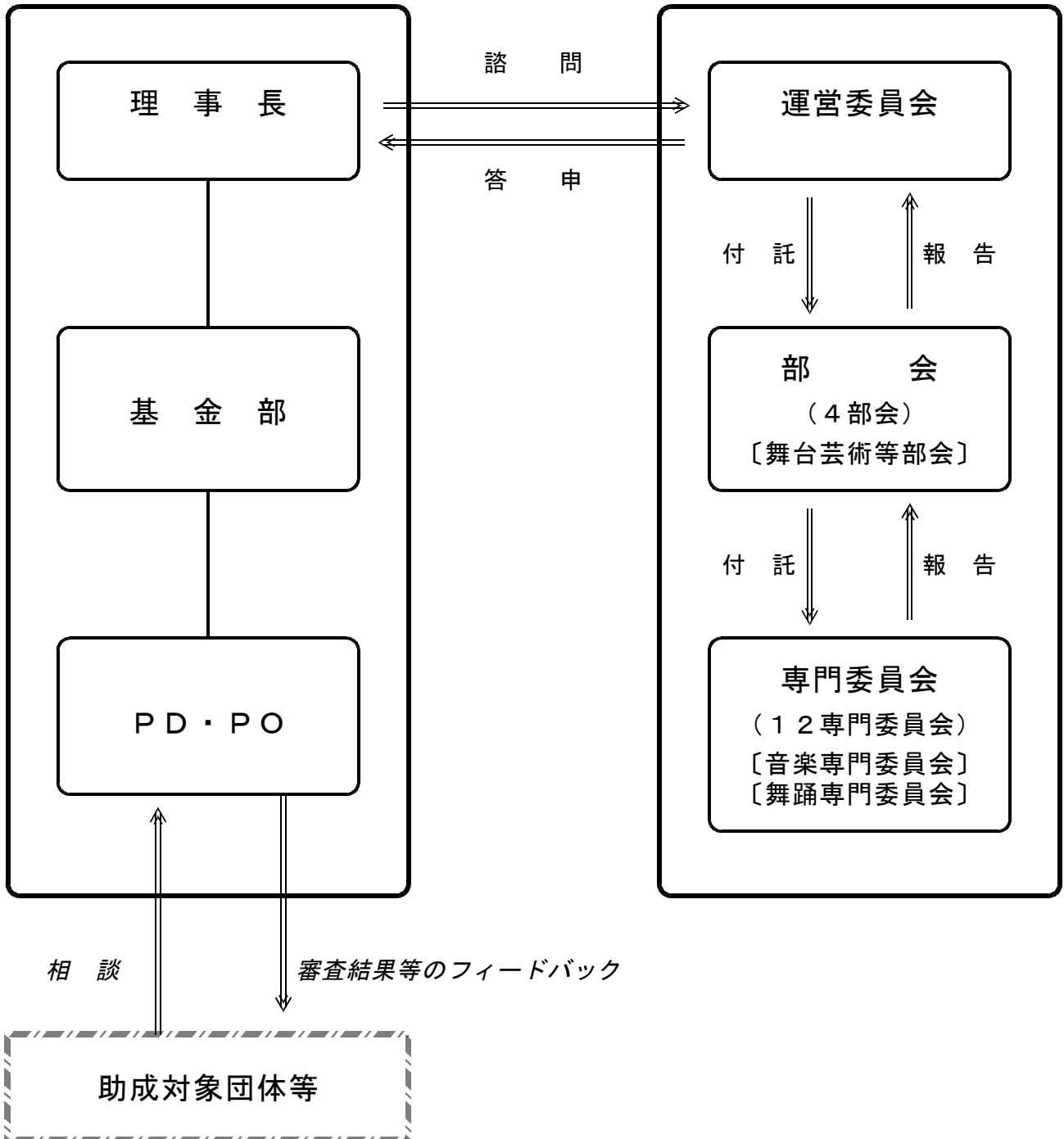
《プログラムオフィサー》

○平成24年4月1日～

役職・分野	氏名	現職等
プログラムオフィサー (演劇分野)	(オ シマ ヒデ オ) 大島 秀夫	株式会社銀河劇場 代表取締役
プログラムオフィサー (演劇分野)	(シバ タ エイ コ) 柴田 英杞	公益財団法人滋賀県文化振興事業団 理事兼芸術監督
プログラムオフィサー (演劇分野)	(カ ヤマ カ 莉) 中山 夏織	NPO法人シアタープランニングネットワ ーク 常任理事 プロデューサー・翻訳
プログラムオフィサー (演劇分野)	(ワ タ シン オ) 和田 喜夫	日本演出者協会 理事長
プログラムオフィサー (伝統芸能・大衆芸能分野)	(オ タ ヒロシ) 太田 博	評論家
プログラムオフィサー (伝統芸能・大衆芸能分野)	(サイ トウ ヒロ ヅク) 齊藤 裕嗣	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所無形文化遺産部 客員研究員

PD・POの配置と助成金の審査体制

芸術文化振興基金運営委員会



独立行政法人日本芸術文化振興会
平成 23 事業年度評価報告書(抄)

平成 24 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会

1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 文化芸術活動に対する援助

日本芸術文化振興会が行う様々な芸術文化活動に対する助成事業については、年間型事業支援の制度も導入され、継続的な芸術創造活動を見据えたきめ細かな助成が実施されていることを評価する。今後は、地方・地域の芸術文化活動に対する助成事業が一層広範囲に行き渡ることが望ましく、そのための広報活動を現状から更に促進させてほしい。

助成金交付事務の効率化等に関しては、23年度は、補助金による助成のうち、音楽分野及び舞踊分野について、専門的な知識や調査研究に基づく助言、情報提供等を行うプログラムディレクター、プログラムオフィサーの配置により、従来にも増して適切な審査が行われたこと、及び助成団体との意見交換ができたことを評価する。意見交換については、公平性を保ちつつ、可能な限り日数を増やしていくことを期待する。

助成制度の重要な点は、助成金額だけではなく、それがいかに有効に使われ、効果が出たかということである。そのためにも効果検証は最も重要なことであり、検証結果を助成活動の審査に正確に反映できる体制の整備が不可欠である。

今後は、プログラムディレクター、プログラムオフィサーも活用して、審査基準を明らかにした事後評価制度と全国的な調査制度の確立を進めてほしい。

審査については、音楽分野及び舞踊分野の審査基準が事前に公表されたことを評価し、更に他の分野への拡充を期待したい。また、審査期間について、申請受理から決定までの期間が大幅に短縮され、1ヶ月以内に審査結果が分かるようになったことは、助成団体にとって公演等の計画策定に有利な状況であり、評価する。

助成対象活動に対する調査についても、目標を大きく上回る654件の会計・公演等の調査を行ったことを評価する。

募集説明会については、今後も東京と大阪以外の地域に拡大する方向で進められることを期待したい。地域の拡大により応募の裾野を広げることで、質の向上にもつながると考えられるため、実施時期・開催地について十分に検討し、充実を図ってほしい。

また、これまでの芸術文化活動に対する助成事業に加え、「社会貢献寄付信託」の環境整備や「芸術文化振興基金賛助会員制度」が設置されたことを評価する。今後は、制度についての周知に努めたい。

これまで行われた被災地における様々な支援活動の中で、芸術活動による支援が多くの被災者の心を癒し、勇気づけてきたことはよく知られている。東日本大震災の復興を支援するため、映画上映活動への助成の追加決定、「芸術文化復興支援基金」の迅速な立ち上げを行ったことは、芸術文化へ世間のまなざしが向けられるきっかけともなり、大いに評価する。今後も効果的・継続的な活動を期待したい。

平成 23 年度独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿

(任期：平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日)

委員長 森 西 真 弓

(大阪樟蔭女子大学教授、雑誌『上方芸能』編集代表)

委員長代理 水 落 潔 (演劇評論家)

委員 太 田 耕 人 (京都教育大学教授)

委員 葛 西 聖 司 (アナウンサー)

委員 田 中 英 機 (実践女子大学教授)

委員 中 村 孝 義 (大阪音楽大学理事長)